

## 秩父初・国の伝統工芸士認定へ

2月25日、秩父銘仙に従事する6人の方が、秩父初となる国の伝統工芸士に認定されました。

これは国指定の伝統的工芸品の製造に関する伝統的な技術・技法に熟練した従事者の認定を行うもので、今後はさらなる技術・知識の向上を図り、伝統的工芸品の振興に寄与し活躍していただくものです。

3月2日には、認定を受けた6人が市長を表敬訪問しました。秩父銘仙の歴史や認定を受けるまでの道のりを報告するとともに、新井啓一さんから、「秩父銘仙という素晴らしいものを残すため、培ってきた技術を継承し、後継者育成に力を入れていきたい。」との思いが

語られました。織物産業の再活性化を目指す活躍が期待されます！

問 商工課

☎ 25-5208



奥左から、逸見和夫さん、横山敬司さん、国本 実さん  
手前左から、倉林 染さん、新井ヤスさん、新井啓一さん

## 羊山公園馬場が

### 完成しました



馬場全景

秩父斎場移設のため、宮地馬場移転先として昨年6月より羊山公園地

内に建設していた新馬場が完成しました。名称も「羊山公園馬場」となり、4月15日(水)～5月6日(水・休)の芝桜まつりにあわせ、秩父市乗馬連盟主催の引き馬による体験乗馬(有料)が実施されます。

なお、馬場建設に当たり、管理棟と厩舎には、森林整備加速化・林業再生事業補助金を受け構造材や内外装材に多くの県産木材(秩父産)が使われている



管理棟と厩舎

ほか、馬場はスポーツ振興くじ助成金を受け整備されました。



馬場所在地

大宮6314番地

問 市民スポーツ課

☎ 25-5230

## 国指定の伝統工芸品へ 秩父銘仙こぼれ話

平成25年12月26日に秩父の誇る「秩父銘仙」が国指定の伝統的工芸品に認定された事はご存じの方も多々と思います。織物業界の関係者の方々の努力が実り西陣織、大島紬、結城紬のような伝統工芸品と同じ土俵に上がることができました。

この連載では、私が秩父の産地を巡り、国に提出する資料づくりで初めて知ったこと、感動した意外な事実などを市報の紙面をお借りしてお伝えできればと思います。

### 秩父銘仙はどれだけ古いのか？

今回の文献調査では、織物問屋柿原商店の末裔、秩父鉄道の社長会長を務められた柿原謙一さんが書かれた「秩父地域絹織物史料集」が最も重要な資料でした。この資料に助けられて伝統的工芸品指定の申請書が完成したと言えます。

ここには、江戸時代の寛永八年(一六三二)に絹を年貢として納めた記録が書かれています。おそらく、秩父の絹織物に関する文書の記録では一番古いものではないでしょうか。寛永年間には、徳川三代将軍「家光」の時代になります。

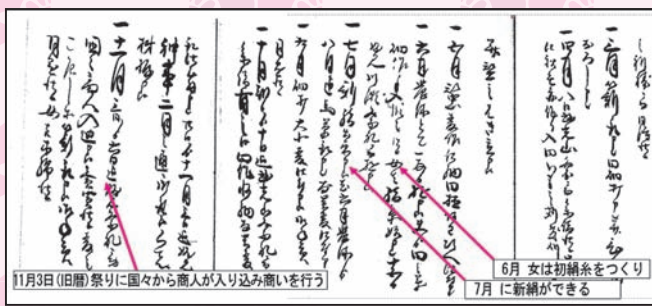
関ヶ原の戦いから家康の江戸幕府が始まった頃には秩父で絹が織られていたのです。鎌倉時代に畠山重忠の旗印を織っていたという伝

えもあります。残念ながら実証できるものは無いようです。

そして、一番すばらしいと感じた記録は秩父市立図書館にある宝永六年(一七〇九)の「秩父領百姓年中業覚」です。宝永年間は五代将軍「綱吉」の時代に入り、富士山の宝永大噴火がありました。

この資料は秩父の大宮郷(秩父市内)の織物有力者十一名が忍藩(行田)の代官に報告したもので、秩父領の百姓(農民)の一年間の暮らしをひと月ごと簡条書きにしたためたものです。

単なる報告ではなく秩父の山村の想像させる詩情豊かな文章で、書としても美しく「秩父町衆」の実力を物語るものです。原本は、秩父市立図書館にあり予約閲覧できます。



※資料は中略図

埼玉県産業技術総合センター

製品開発担当部長 影山和則